第３回　共同体育館整備に係る意見聴取会議
議事録

■ 開会あいさつ（角田文化施設政策監）

共同体育館整備に係る意見聴取会議の開会に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。委員の皆様におかれましては、夕方のお忙しい時間帯の開催にもかかわらず、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日は第３回の会議ということで、前回の会議では、様々なご意見を聞いてまいりました。

地元自治会の方々、或いは周辺の教育関係、福祉関係の方々などのご意見や、意見交換会の状況などもご紹介させていただき、委員の皆様からは、本当にご専門の立場から幅広くかつ、深堀りしたご意見を頂戴したところです。

今回は、前回の会議以降に広く京都府民の方々を対象とした府民ワークショップを、そして、府立大学生を対象とした学生ワークショップを開催してきたところであり、それらの内容も紹介させていただければと思っております。

また、学生ワークショップの開催にあたりましては、上林座長には、ファシリテーター役を担っていただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

本当に多くの皆様から多様なご意見を重層的に伺ってきたところであり、こうした状況も踏まえ、本日は委員の皆様からさらにご意見をお聞かせいただければ幸いです。

開会にあたりまして、簡単ではございますが、冒頭のご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

議事（１）共同体育館に係る整備内容の検討について

京都府から、資料に基づき、前回の意見聴取会議での意見を整理するとともに、府民ワークショップ及び学生ワークショップで出された共同体育館整備に係る意見を紹介した上で、整備内容に係る意見を伺った。

＜説明要旨＞

・第２回会議では、大学体育館としての利用という論点を中心に、大学の教育研究機関の向上という論点、大学スポーツ等の拠点形成という論点、周辺環境との調和等地域住民の利便性の向上という論点、誰もが使いやすい体育館という論点で、委員からご意見を頂戴した。

・第２回会議を受け、昨年 11 月・12 月に北山エリア整備に係るワークショップを開催した。共同体育館をテーマとするワークショップの参加者からのご意見を紹介する。

・共同体育館に求める機能については、災害時に避難場所等として機能できるのではないか、トレーニングルームなどの府民も使える施設について言及をいただいた。

・観客席については、プロスポーツの時に使えるようにという意見がある一方で、最小限でよいなど、様々なご意見を頂戴した。

・運営については、地域利用まで行うと競技団体が使える余地がなくなるのではないか、スマホアプリで予約できるようになると利便性が向上するのではないかというご意見があった。

・共同体育館のあり方については、北山エリアでの必要性が分からないというご意見があった一方で、甲子園のような憧れの場所を目指すのがいいというご意見を頂戴した。また、京都における体育施設の現状については、予約が重なってなかなか利用できないことが多いことから、大きな体育館の需要が

あるのではないかというご意見もいただいた。

・次に、学生ワークショップでの主な意見をご紹介する。京都府立大学においては、これまでから大学から学生に対して整備方針の説明や意見聴取を実施してきたところであるが、意見聴取会議において、「専門家の観点とは別に、当事者の観点から体育館に求める仕様や機能について、深く掘り下げる必要がある」とのご意見を頂戴したことから、昨年 12 月から３回にかけて在校生によるワークショップを改めて開催いただいた。

・全学生に毎回呼びかけて参加者を募り、延べ 26 名の参加者があった。本ワークショップについては、上林座長にも、各回ファシリテーターとしてご協力をいただいた。参加した 26 名の学生は、体育会・文化会それぞれに所属しており、一利用者としての立場に加えて、各クラブの立場からも求められる機能等について意見や要望を出してもらい、諸室や配置についても、意見交換を行っていただいた。

・参加した学生の意見は、３回目までにワークショップの取りまとめ結果として整理した。競技面についてはバスケットコート３面程度の広さで十分で、大規模な観客席は必要ない、また、武道関係のクラブや文化系のクラブの活動場所を拡充して欲しいという結果であったと伺っている。

・具体的に学生から出された意見要望としては、空調や、弓道場やアーチェリー場が欲しいなど、機能向上等を求める様々な声が出された。

・最後に、第１回、第２回会議における委員の意見に加えて、府民ワークショップや学生のワークショップの結果も踏まえ、北山というエリアに整備される施設としてどのような機能を備えることが望ましいか、改めてご意見を頂戴したい。

■ 補足説明

＜上林座長＞

ありがとうございます。それでは各委員の皆様から順番に、本日の配付資料を踏まえて、それぞれの専門的なお立場から、ご意見をいただければと思っております。今、京都府からお話いただきました、府立大学で開催されました学生ワークショップについて、塚本委員から追加説明をお願いできればと思います。

＜塚本委員＞

よろしくお願いいたします。府立大学学長の塚本でございます。

学生は体育館をどのように使いたいかということを非常に重視しておりまして、上林先生にファシリテーターをしていただき、ワークショップを開かせていただきました。

学生全員に呼びかけて、実際に来ていただいて、実際に膝と膝をつきあわせるぐらい近くまで議論し、模型を使いながら行った、熱い会議でありました。

学生の意見は概ね先ほどの資料の通りですけれども、現役の学生から様々な要望がありました。その一つとして、上林先生にご協力いただいて、学生が望む整備イメージを具体化しておりますので、共有していただいてよろしいでしょうか。

（スクリーンに資料を投影）

投影図面をご覧ください、上の方を植物園側とした施設配置のイメージになります。青色の囲みが共同体育館で、今回新しく作り直そうと考えている部分、黄色の囲みが今使っております第２体育館でこちらは耐震診断が問題ないとのことですので改修のみして残します。加えて、青と黄色の囲みの間に挟まれた緑

色の部分、これが第２体育館を増設・拡張した施設となる構成です。

ご覧の通り、学生の求める体育館のボリュームは既存体育館のキャンパス区画に収まる程度になっております。共同体育館としてはバスケットコートが３面分、第１体育館部分の解体建て替え範囲に新設することで、既存の第２体育館を引き続き使いながら機能拡張する考えです。工事によって学生のクラブ活動、体育活動がストップすることも無くなります。

加えて、体育館のキャンパス区画の北側、区画と植物園との間にクラブボックス街という大学部活動の付属施設を集めた場所があります。学生活動の中心的な場所で、ＯＢ・ＯＧの方々からも是非残して欲しいという要望がある場所です。今回、既存体育館のキャンパス区画に施設規模が収まったことでクラブボックス街を残したまま施設配置ができる構想となっています。もちろんクラブボックスはもうボロボロですので、将来的に綺麗にしてほしいとの要望も出ていますが、場所は変わらず、改修で残す第２体育館とあわせて既存の雰囲気を残した検討ができると考えております。

これらの検討は京都府立大学の全学生が集まって考えた訳ではなく、全員に声をかけた上で、参加してくださった学生有志の意見を集約したものです。体育会所属の運動部活動代表にも集まっていただき、実際に今、体育館を使っていただいている学生の声をまとめた構想となります。是非参考にしていただきたいと思っております。

私や職員の方からは、学生に押し付けたり注文したりせずに、自由に意見を出してもらった結果です。学生以外の関係者に対して何ら忖度は入っていない意見だと思ってもらえればいいかと思います。

私自身は建築の専門ではございませんので、専門家の上林先生から補足説明していただけたらと思います。

＜上林座長＞

ありがとうございます。先ほど塚本学長が仰ったように、学生の大学体育館として充分なボリュームかと思います。

検討を進めた経緯のお話を補足しますと、現在の施設において、活動の場所が足りないという意見がまずは多く出されました。アリーナスポーツだけでなく例えば第２体育館の卓球場をみますと、半分は卓球部、半分はボクシング部が使うというなかなか厳しい状況があります。まずは今の活動場所を増やそうとの考えで検討が進みました。体育館だけでなく、第２体育館の機能を増築・拡張し、体育館機能と接続させて共同体育館の要件を満たすように緑の囲み部分に二層分の施設として集約しております。

現在、第１体育館はすでに耐震の問題もあり使用されておらず、府立大生はグラウンドにある仮設体育館を使っています。いま誰も使ってない第１体育館をそのまま潰すことができれば、工事等で活動を途切れさせることなく、共同体育館を作ることができるという考えです。

今回の検討のきっかけとして、既存の体育館のあるキャンパス区画いっぱいを使用した４面コートの体育館を叩き台として出したのですが、「いや、そんなにいりません」との学生からの意見から３面コートになっています。固定観客席は０席ですが、大会や競技会、大学定期戦もあるとのことで、ロールバックシートと呼ばれる可動観客席を北側と南側に設置した検討案となっています。真ん中のセンターコート１面を取った時に、北側と南側で 900 席ずつ、可動席だけで 1800 席。それにパイプ椅子などの平席を加えて最大 2000 席規模を大会の時に展開ができる体育館になっています。

検討しながら上手にはまったと思ったのは、この新体育館部分のボリューム

であればキャンパス内の既存樹木を大幅に伐採せずに済むことを確認できたことです。既存施設の周りには御信桜など記念樹木のほか、クヌギであるとかフウの木など年月を経て大きく育った立派な樹木があります。それらの樹木を保存できる配置であることを確認しました。

第２体育館は耐震基準に関して大丈夫という判定をいただいています。そのまま使ってあげた方がＳＤＧｓ的にもいいですし、おそらく今後、使い方をもっと検討しようという時に第２体育館の建て替えるような時代にあわせた段階的な環境整備も可能で、今回は部分的な改修に留めて使い続ければいいのではとの意見がありました。

最低限の施設整備案となりますが、それでも体育館の規模が３面に増えて、ものすごく大きな体育館ができるのではないかとの懸念もあるかと思います。こちらも学生たちが色々調べて、高さにして今の第１体育館と同じ高さで済むような工法があることを確認できました。高さや方向はそのままに単純に体育館を横に伸ばすような形で面数を増やすことができそうです。体育館からは植物園のある北側に影が落ちます。投影資料にあるようにちょうど赤線のラインが今の第１体育館になるのですけれども、体育館の面数拡大を南側に伸ばすことで、日影がいずれの隣地に対しても迷惑をかけることはない計画にまとめることができました。学生たちの意見が集まって、すごく上手くできたと思っております。

今後の課題としては、体育館単体だけでなく、キャンパス全体の計画とうまくなじませる必要があると考えています。第１体育館と、今の計画しているキャンパスとの関係、またこれまで議論に出てきていませんが、グラウンドと連携して運動部活動などでどう使うのかが重要です。今回、体育会系学生と話すなかで、何としても弓道場作りたいという話がありまして、今テニスコートがあるとこ

ろに弓道場をとりあえず配置しています。テニスコートの移転先としてグラウンド利用の整理を行なえばよいのではとの意見が出ています。今のグラウンドは多目的な使われ方をしていることもあり結構余裕のあるレイアウトで使われています。もう少し整理すると、野球場とサッカー・アメフト兼用のピッチ、テニスコートをグラウンドに配置することができそうです。グラウンドは、普段から多目的に学生たちに開放しているものではなく、どちらかというと大学スポーツの部活動として使っているグラウンドです。共同体育館も含めてエリア全体をもう少し整理してあげれば、この周辺がスポーツエリアという形でちゃんとまとまるのではないかと、ワークショップの中で話しています。

今回最大の成果は、学生主体での話し合いのプラットフォームを作ることができたことだと思っています。先ほどご説明いただきました、３回にわたったワークショップですが、正確にいうと実はもっと多くの時間をかけています。どういうことかというと、３回だけ会議の場所を持ったのではなくて、１回目に参加者の皆さんにメールアドレスを聞いて、オンラインホワイトボードを立ち上げて、そこにリアルタイムで図面をどんどんアップして、それに学生たちにコメントをつけてもらうことで、ほぼ毎日更新を進めた次第です。学生みんなが自由に参加しながら、意見が集められて、随時更新できるような仕組みが今回できました。これはすごく大きな成果と思っていまして、今後とも構想を具体化する時、学生たちから意見を集める時に、そういったプラットフォームがあるというのは非常に大きいことだと思います。これらの仕組みを使いながら、施設を検討していくようなことが、今回下地として土台としてできたことが非常に大きいかと思っております。

取り急ぎ私の方から補足は以上です。ありがとうございます。

議事（２）意見交換

■委員意見

＜上林座長＞

それでは今の補足的な説明も踏まえまして、各委員の皆様から順番にそれぞれ専門的な立場からご意見をいただければと思っております。１人５分程度でご意見をお願いできればと思います。最後に各委員からのご意見を踏まえて、再度私の方からも発言させていただければと思います。なお、欠席されている委員に関しましては、事前に事務局からご意見をいただいておりますので、ご紹介をお願いできればと思います。

それでは五十音順に阿南委員からご意見をお願いしてもよろしいでしょうか。

＜阿南委員＞

よろしくお願いします。今、資料を拝見し、図面も拝見させていただき、元々色々なご議論が最初からあったと思うのですけれども、学生の意見で考えた時の体育館に、あと地域活用といいますか、あのような感じが一番いいのかなと、上手に考えておられる。大変失礼なのですけれども、うまいことおさまっていると感じたのが正直な気持ちです。あれぐらいの規模は多分京都でいくと伏見港体育館の規模と同程度ぐらいになるのではないかなと思いますし、どこまでいっても当初からの議論で、ここに何を求めるかということが一番大事で、皆さんその辺の考え方というのがあろうかと思います。色々な方面で、今回の共同体育館には色々な考え方がありますし、こういうことをしようということありきではなくて、色々な視点で考えたことによって、大体見えてきたものがあるのではないかなと思っています。

そういう面では、どこまでいっても、大学の体育館ですから、大学・学生をベースにした利用の中で、地域或いは競技団体が使えるような大きさであり、或いは地域の方も使えるような部分などを残せるという、先ほどのお話でいくと、学生からの要望はバスケット３面程度、あとは第２体育館で、元々私もサブアリーナについてお話をさせていただいておりますので、非常に方向感としてはうまくまとめられたのではないかと思います。

前回の会議以降、私も全国のアリーナをされているところのお話も色々お聞きしたのですが、現実問題として、たくさん人を集められるというのは採算的にも極めて厳しいというのが現状でして、それなりの人数を集める時にはその人たちが動く動線なども作っていかなければならない。現実的にすでにでき上がってる北山エリアの中でとなると、来られる人の動線を描くのはなかなか難しいのではないかなと思っていたところです。そういう意味では、今お話いただいたような規模感が決まらないと、これからどういうものを民間活用するのか、他の競技団体も含めた活用をどう考えていくのかは、そこからだと思います。

京都府の中で体育館が少ないという懸念が元々のベースにあろうか思いますし、ここの部分だけですべてが解決すると思っている訳では決してありませんけれども、こういうものが一つまたきっかけになって、体育館競技の振興に繋がるのではないかなと思っていますので、先ほど図面を拝見させていただいたような方向感で進められるのがいいのではないかなと思っております。

＜上林座長＞

ありがとうございます。仰る通り、今回の資料はあくまで学生の意見の集約であり、府民ワークショップの意見は反映されていません。そういった意味では元々の今回の議論である大学体育館としての利用にかなり寄せています。

府民ワークショップで得た意見は、北山エリアだけでなく府全域で考えるべきという議論があるかと思います。まさに阿南委員のおっしゃった、どういう最適化を図るのかというところを、面的に展開できればいいのではないか思います。ありがとうございます。それでは小国委員、よろしくお願いします。

＜小国委員＞

失礼いたします。私は競技団体を代表して来ておりますので、競技団体の意見として、初めにこのお話をいただいた時には、やはり京都府に国際大会をできるような体育館がないということで、意見を申し述べさせていただこうと思ってきていた訳ですけれども、1回目の会議の時にもありましたように、やはり学生の意見を聞いて欲しいというのは私自身も思っておりましたし、学生が嫌な思いをしたり、満足できない状態で進めるのはどうかなとは思っておりました。

私としては、やはり大きな体育館ができるに越したことはないと思っておりましたけれども、上林先生が学生と作られた図を見て、どこにも迷惑をかけないようにとか、少し建物が南にも伸びているものの、木も切らなくて済むということが、例えば周りの地域住民の方たちの心に寄り添うのであれば、それは大事なことではないかと思っています。

ただ、今、京都では平均寿命が非常に高いけれども、健康寿命があまり高くないと言われているようなのですが、例えば体育館でスポーツ教室等をシニアの方などがなさることになりますと、競技団体としては、ますます利用ができなくなるということもありますし、現在でも、例えば普及大会とか研修会とか、そういう名前で申請を出してもほとんど通らないというのが現実としてありますので、今ここで検討を進めていただけることについて、私は感謝を申し上げますし、ここで進めていただくことで、次のことをまた考えさせていただければ、ありが

たいなと思います。

まずは、この体育館が許される範囲の中で、大きさや、可動式の観客席のことなども考えていただいているようですので、どちらにも寄り添えるような体育館になっていただければありがたいかなと思っております。

国際大会ができる体育館を諦めた訳ではないのですけれども、ここで言い張ってどうにかなることでもないと理解しておりますので、なるべくそれぞれのご意見を頂戴しながら競技団体としても考えていければと思っております。

＜上林座長＞

ありがとうございます。それでは木村委員、お願いしてよろしいでしょうか。

＜木村委員＞

先ほどの図面は学生からの意見を踏まえて作られたということで、学生の希望が反映されてまずはよかったと思います。一方で、参加しなかった、あるいはできなかった学生に対してもこの案でよいのか確認していく必要があると感じました。さらに、大学としての意向や方針はないのかなという点も気になりました。

それから、府民ワークショップに関して、これだけの府民の方が参加されて色々意見を言われたということは、体育館に対する期待の現れでもあると思うので、その意見は大事だと思います。完全に大学の体育館のみとするのか、それとも府民の方も利用可能な体育館とするのかによって、検討するべきことも変わると思います。どちらを選択するのかは京都府や京都府立大学の戦略でもあると思うので、しっかり検討する必要があると思いました。

また、今は現在大学でプレイされているスポーツをベースに考えられている

と思いますが、将来例えばｅスポーツであったり、何か他のスポーツ活動が始まるということに対しても対応できるのかについても検討しておいた方がいいかもしれません。

文化系クラブ学生が、コンサートができると嬉しいという意見がありましたが、隣に立派なコンサートホールもあるので、北山エリア全体として、京都府立大との連携を考えるということもありえるのかなと思いました。

また、前回体育館施設の中に研究用のレンタルラボスペースを作成するという案をお話しましたが、こちらについても、大学としては研究スペースは十分なのか、せっかく体育館を建て替えるのであれば研究施設も入れたいのか、大学の方針によって考えていただけると良いと思います。今多くの府民の方が注目されている施設更新でもありますので、うまく府立大学の方針が府民に伝わるとよいかなと思いました。以上です。

＜上林座長＞

ありがとうございます。それでは、越山委員と田中委員のご意見について、事務局の方から説明をお願いしてよろしいでしょうか。

＜越山委員（京都府読み上げ）＞

京都市内においては、避難所が一定整備されていると思われることから、共同体育館の規模の問題よりも防災時に活用できる備蓄庫、放送施設を備えることで、地域の安全を支える施設となりうると考えます。

ただし、京都府が管理する備蓄庫であれば、災害時には京都市外に発送されることになるので、周辺地域に直接的なメリットがある訳ではないことに留意が必要です。

また、アクセスの問題や、水に浸からないようにするための対策も考える必要があります。

備蓄の場として設定する際には、大型トラックやコンテナなどのアクセスや設備など、周辺道路環境との関係を考えねばならず、また、ハザードマップの情報からすると、浸水対策が必要になる場所であります。

いずれにいたしましても、防災機能を整備内容に盛り込んでいくのであれば、現状をよく分析した上で、府の防災担当部局や京都市と具体的な調整を進めていければよいと考えます。

＜田中委員（京都府読み上げ）＞

重要なステークホルダーである府民、地域住民や学生の意見を丁寧に拾う努力をされたことに敬意を表します。

前回の会議でも発言したように、大学体育館としての理由を最優先することを前提に考えるならば、空き時間などにその施設を活用することで、得られる金銭的、非金銭的な便益に照らして、投資が見合うかどうかの判断をしていく必要があるのではないかと考えます。

資料に書かれている情報だけでは判断できませんが、府民ワークショップ、学生ワークショップの意見からは、学生にとって使い勝手のよいものであることに加えまして、災害、雨天時の利用などの期待も大きい一方で、興行利用には、慎重な意見も散見され、現時点では、大規模な投資を行うことによって、ステークホルダーに対して、それを上回る価値を生み出すことが期待できる状況とは言えない可能性があるのではないかと考えます。

環境性能の高い施設を目指すことは当然ですが、持続的に経営していけない施設を建設しても意味がありません。環境面だけではなく、経営面や社会的な面

からも総合的に見て持続可能な施設でなければならず、その観点からは、施設規模の縮小を含めて、方向性を慎重に見極める必要があるのではないかと思料します。

＜上林座長＞

ありがとうございます。それでは塚本委員、お願いしてよろしいでしょうか。

＜塚本委員＞

どうもありがとうございます。本学の体育館の整備ということで、４年ほど前からお願いしていたものが、馬鹿でかい話になってしまい、非常に慄いております。今日はカメラも来ておりますし、私はどうしても現場の人間ですから、小さな範囲でしか見えなかったようなことが、皆さんが俯瞰的に見ていただいて、また環境やお金、スポーツ、色々なファクターが入ってきて、大学の体育館、本学の場合は京都府府立大学になりますので、どうしても府に開かれた府民、あと市民の皆さんに開かれた大学であるということ、色々なファクターがございます。色々な委員の皆様、団体の皆様からご意見いただきまして、心配の声もいただいております。逆に言うとすごく期待されているのかなと思っております。

今日出させていただいた絵については、現段階の学生が望んでいるものでございまして、先のことまでは、まだ考えられていないものになっております。

これからｅスポーツや色々なＩＴ等があり、将来的にどういう体育館がいいのかはちょっと分からないような気がしております。

大学の学長といたしましては、議論はもちろん重要だと思いますけれども、それよりも先に建ててほしいと言うのが本音でございまして、議論をしたことで、何かすごく良いものが建てばいいのですけれども、それよりも時間重視という

ところも念頭において、皆様に色々なところをギュッとまとめられるような形に加え、大学の施設ということで、研究面など、大学に特徴的な部分も少しわがままを言わせてもらって、設置者である京都府と一緒に協議しながら、できるだけ早く作っていけたらと期待しておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

特にこんなに大きな社会現象のようになってしまい、少し驚いているところでございます。以上です。

＜上林座長＞

ありがとうございました。それでは最後になりますが、私の方からそれぞれのご意見を踏まえながら、お話できればと思います。

木村委員のご指摘について。学生と色々意見を交わすなかで、合気道部と剣道部があって、それぞれの面数が足りないということで今回増設部分にそれぞれ２面ずつのスペースを拡充しました。私自身柔道経験者ということもあり「将来柔道をする子がいるかもしれないからもう２面増やさないか」と話をしたのですが、「いや、いいです」と言われてしまいました。やはり今の活動をベースにした意見という意味では今回の検討は非常に素晴らしいものなのですが、ただ、将来にわたってのことを考えると、さらなる意見が必要かなとも思います。

その点、今回の検討で今後に活かせそうな方法が２つほどあります。一つめとしては、ワークショップは３回で終わったのですが、まだオンラインホワイトボードは開設したままであり、その中で学生がアクセスしながらまだコメントできる状態で残している点です。これを継続・継承することはすごく重要かなと思っております。

もう一つが、通常こういう体育館の建て替えの時に、第１体育館第２体育館を

全部潰して一つの新しい施設を作りましょうとなりがちなのですが、段階的な整備を今回提案できたことがすごく上手いと思うのです。第２体育館の機能拡充ということで多目的室として整備する部分を多く作る構想となっています。これは、文化部の活動なども是非やらせて欲しいという意見があったり、もしくは多目的に使える場所が欲しいという話があるなかで、まさに会議室であったり、先ほど木村委員からもお話があったラボ的な使い方も十分考えられる余地となるかと思います。

それでもなお使っているうちに、第２体育館で現状卓球場にボクシング部が入り込んだかのように、将来の利用方法によって機能が不足する可能性も考えられます。もし全体を一体的となる１つの施設に建替えて一新してしまうと、もう一度改修によって機能を検討するのは難しくなります。ところが今回あくまで古い施設を残したまま段階的に整備をすることで一つめが生きてきます。新しい機能を拡充するために、第２体育館をどうすべきかを学生の共有するオンラインホワイトボードで議論しながら進めるといった「利用する当事者による持続可能な仕組み」を構築できるようにしています。学生たちで回しつつ、ずっとサスティナブル（持続可能）な形で議論ができるような仕組みが今回を機会に構築できれば、公共スポーツ施設として画期的な事例になるのではないかと個人的には思っています。

今回の意見聴取会議全体を通じて大学体育館としての利用を議論してきました。今回の資料の中でも大学体育館のあり方を中心に掲げさせていただいておりますけれども、やはり中心はずらさずに、今後とも議論を進めていければいいのではないかなと思います。

今日お話いただいた中で、特に小国委員が、今回の競技団体についてのご意見としては府の施設として少しでもスポーツ振興を進めるうえで、競技にとって

要望したい部分に対して、学生のための大学体育館としてここにあるべき姿を優先してご意見をいただいたのだと思います。

第１回・第２回の会議でも話は出ていますが、府全体のスポーツ振興の議論については引き続きおこなうべき課題であり、おそらく北山エリア単体で解決する話ではなくて府全域で解決すべき話なのではないかなと思っております。まず施設数が少ない、国際大会ができるような場所がないことは課題です。国際的な都市として京都に相応の規模の施設がないことは非常に口惜しいところかと思います。ふさわしい場所はどこなのかなど改めて継続した議論として、今回とは別に進めていくべきだと思います。スポーツ興行なども含めて良い場所の検討を進めてほしいと思っております。京都におけるスポーツのポテンシャルは非常に高いと考えています。

最後に、小国委員がご指摘の通り、高齢化社会の中で、その地域の健康をいかに維持していくかは非常に重要な視点だと思います。今回の図面作成の時に、よほど若手の方がちゃんと考えていると思ったのが、「エレベーターをつけましょう」との意見が出たことです。車椅子を使っている学生もいるなかで、２階との上下の行き来が階段だけでは駄目ですと。実際にみんなが使えるような場所が絶対必要だという話が出ています。また彼らの中でも、自分たちの活動の場所としてだけでなく、地域とともにある地域スポーツのあり方に関しても言及がありました。まさに社会の多様性への意識がちゃんと出されています。

京都府立大学が地域とともにあるなかで、金山委員が先般から御指摘のようにアクセシビリティやダイバーシティそしてインクルージョンについて、府立大学として考えていく時に、スポーツ環境やスポーツ施設はどうあるべきなのかを考えるべきなのだと思います。

あくまで理想の世界ですけれども、府立大学とともに地域の健康指標が上が

ったなどという話になれば公共大学が地域に関わるいい事例になりますし、うまくできればいいなと思っております。

とは言え、やはり大学体育館としての利用が先に立つことが前提です。今回、学生の活動場所ということを中心に置いた時に、地域の健康という点に対して、大学体育館がどういうことができるのか。賀茂川の河川敷などを使うなど北山エリア自身も包含するような考えで何ができるのか。府の議論だからできる広域的な面でとらえた健康マネジメントのようなものができればいいのではないかと思う次第です。

もう少しだけ時間があるようなのですが、それぞれの委員の意見を踏まえながら、何かご意見はございますでしょうか。

木村委員、よろしくお願いします。

＜木村委員＞

高齢の方や、子供も含め、色々な方が体育館を利用できるようにすることで、大学のアクティビティーにも府民を巻き込んでいければ面白いと思いました。例えば、大学の研究の実験協力者として体育館を利用される府民の方に協力をお願いするようなことも考えられるかもしれません。様々な年齢の方が体育館を利用されれば、バラエティに富んだ方に研究協力してもらえる可能性も出てくると思います。

＜上林座長＞

ありがとうございます。まさに府立大学と地域との関係というお話に踏み込んでいただいたと思うのですが、塚本委員、いかがでしょうか。

＜塚本委員＞

どうもありがとうございます。皆さんと共同でできることはもちろんやるべきで、府立大学の使命でもございます。

片や各教員はそれぞれかなり忙しい状態で、もうかなり余裕がない状態でもあるということをご理解いただけたらなと思います。

例えば運動施設がここにできて、研究との連携はどこの大学がきてもいいのかなと思っております。だから、その辺はうまく融合を図っていきたいと思います。

本学も栄養系や運動系の研究者がおりますので、そういう方々はもちろん実験の場として使えるかと思います。以上です。

＜上林座長＞

ありがとうございます。その他に意見はいかがでしょうか。大丈夫でしょうか。ありがとうございます。

私が余りにも具体的に図面を描きすぎて、実際にこれが建つのかと勘違いされそうなものを描いてしまっているので、なかなか表には出しづらいところもあると思いますが、今日資料についてお話しさせていただいたような話を、引き続き学生の皆さんにも共有いただいて、もっとこういう意見があるべきだとか、あわよくばそれを府民ワークショップなどの場に共有しながら、少しずつ広げていくようなことができればいいのではないかと思う次第でございます。是非ご検討いただければと思います。

それでは各委員の皆様、ご意見をいただきましてありがとうございました。それでは議事進行を一旦事務局の方にお返ししたいと思います。

■京都府事務連絡（次回以降の進行について）

次回の会議については、本日いただいたご意見を受けて京都府で整理し、後日、日程も含めて連絡させていただきます。

■閉会あいさつ（角田文化施設政策監）

本当にありがとうございました。様々な貴重なご意見をいただきました。

本日ご欠席の委員の皆様からもご意見いただいたところですし、また急遽ご欠席された金山委員についても、エレベーターを作る話や、地域にも開かれた、ダイバーシティ・インクルージョンなど、上林座長から金山委員のご専門の部分も補足いただきまして、ありがとうございました。

一方で、木村委員にもご発言いただいた通り、学生意見の吸い上げとしてはその通りであるけれども、今回、合計 2000 名の府立大学生の内、全３回開催で参加者は計 26 名でしたので、延べ人数で申しますと 6000 分の 26 であり、これだけでいいのかなというご意見もいただきました。

さらに、上林座長におかれましては、オンラインホワイトボードも継続していただいているということであり、様々なご専門の分野で本当にお力添えいただいている中で、本日いただきましたご意見も京都府でしっかりと検討させていただき、次回に進めていきたいと思っております。

本日はどうもありがとうございました。